

## ◆担い手育成事業

### 平成25年度新規漁業就労者調査

水産海洋技術センター 牧野清人

平成25年4月から26年3月までの新規漁業就労者について、県内各漁協の協力を得て調査を行った。調査内容は新規参入者の年齢、性別、業態、正組合員、准組合員の別であった。また、組合脱退者についても聞き取り調査を行った。

平成25年度における新規参入者は123名で、年代をみると、10代の参入者は4名、20代が21名、30代が35名、40代が22名、50代が24名、60代以上が17名と、24年度同様、それ以前に比べ20～30代の若い漁業者の加入割合が多い結果となった(図1)。

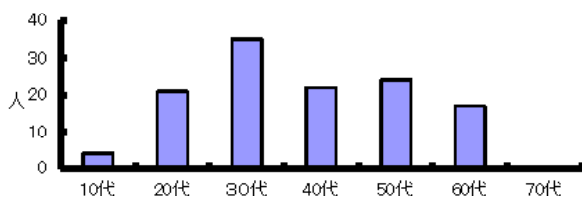


図1. 年代別参入漁業者数

新規参入者の中で、正組合員は6名、准組合員は67名、その他が50名であった。その他は組合事務局によると、組合員の資格は有しないが、加入申請を行っており、員外組合員として認可され、今後水揚げの状況によって組合員資格審査を受け、正組合員若しくは准組合員になる予定とのことであった(図2)。

新規就労者が組合員になるか、員外での加入となるかは各組合の方針によって異なる。

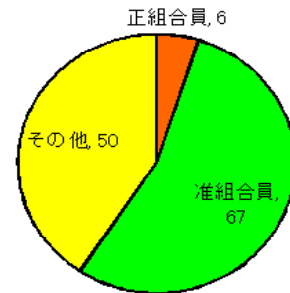


図2. 参入者における組合員資格別割合

新規参入者の漁業種類は複数の業態を行う漁業者が殆どであったが、全体をみると曳き縄一本釣りを開始している漁業者が47名と最も多く、次いで素潜り漁が26名、潜水機漁業が17名、ソデイカ漁と延縄漁が11名の順で多い結果となった。

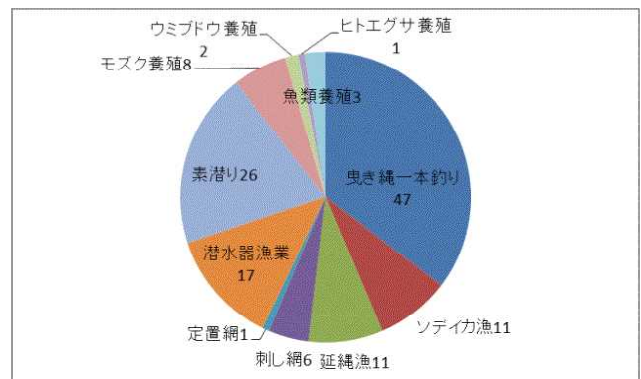


図3. 新規参入者の業態別割合

各漁協ごとの新規参入者数をみると、八重山漁協が27名と最も多く、次いで糸満漁協が11名、宜野座、石川、与那城、知念、久米島漁協が共に7名の順で多い結果であった。八重山地区は県外からの加入者も多く、主に潜水漁業および曳き縄、一本釣り等のマグロ漁業への就業が多い。

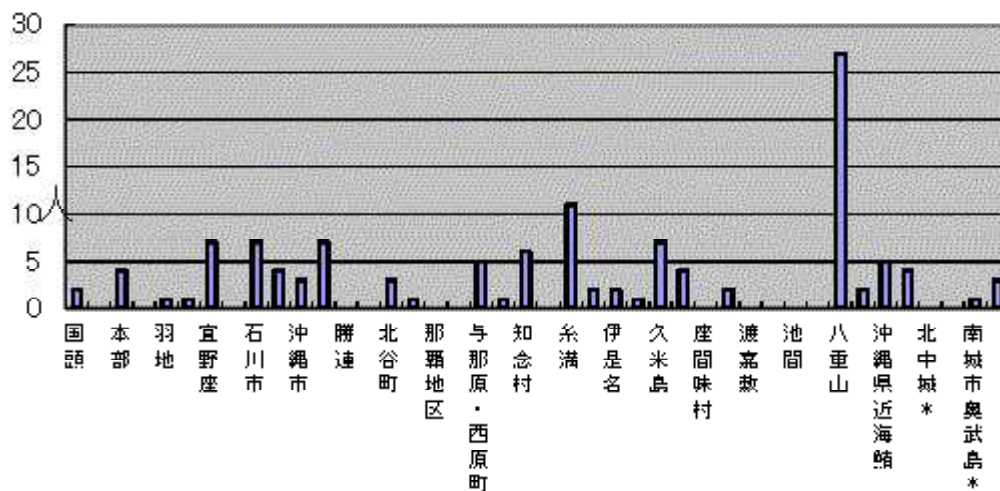


図4. 漁協別新規参加者数

平成25年度における漁協の脱退者は143名で、新規参加者が脱退者を20名上回る結果となった。脱退者の内訳は任意脱退者が56名、組合員資格の喪失が40名、死亡による脱退者が47名であった。任意脱退の内、病気、高齢による脱退者が23名であったのに対し、自ら漁業を断念したものが33名であった。死亡脱退の多くを高齢者が占めていることもあり、高齢による脱退は今後も続くと思われるが、反面若い漁業者の加入割合も増えていることもあり、今後の水産業の持続と活性化につながることを期待する。

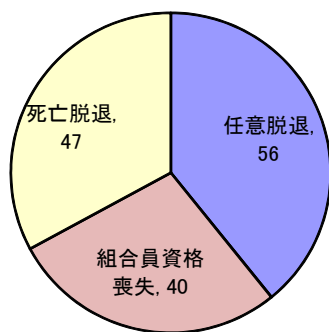


図5. 脱退者数（事由別）